

音声学から考える商標の称呼の類否 第8回

サブタイトル：音の切れ目

弁理士 池山拓治

0. 復習

音はすべて同じく聞こえるわけではなく、よく聞こえる音と聞こえにくい音があり、前回までの複数回にわたって、いわば音の顕著度ランキングについて具体例を示しつつ書きました。

今回は、「音の切れ目」について書きます。我々は一様に音を聴いているわけではなく、一定のまとまりの連続として、リズムをきざみながら聴いていることがわかっています。今回も、あまり知られていないであろう事項を、専門的に踏み込みすぎることなく調整しつつ、基本的知識を扱います。

1. 音韻

日本にミシンが入ってきたときに、sewing machine (ソーイング マシン) の machine (マシン) が「ミシン」に聞こえ、ミシンと呼ぶようになったといわれますし、ジョン万次郎こと中浜万次郎は自身の和英の対訳本に水(water)を「わら」と記しています。つまり、日本語の言語音の知識を持つ者にとってはそのように聞こえるということです。特定の言語知識を背景に持つ者が音を聞き取る仕組みにより、このような事象が起こるのですが、これを音韻といいます。つまり、音韻とは言語音の中から、現実の音ではなく、意味があると脳が判断した音を選んで聞き取る仕組みと言い換えることもできます。

以下に扱う項目は、日本語の音韻を背景にし、音の羅列を言葉として知覚し、認識するメカニズムに関するもので、いわば自然な日本語として認識される条件といえるものです。

2. 拍

例を挙げます。「アーモンド」はいくつの音からできているのでしょうか。

5と答える人が多いでしょうか。しかし、3という別解もありますから、両説について説明します。

(1) 「5説」について

「ア・ー・モ・ン・ド」

とわけた場合は5です。

これは、字数を音の数と一致させ、一文字を一つの音とする考え方で、同じ長さで発音すると考えている音の一つのまとまり(等時的単位)とします。このまとまりを「拍」といい、俳句や標語のリズムに用いられています。しかし、実際に解析すると、拍は完全に同じ長さではなく、ばらつきがあり、同じ長さで発音しようとし、かつ、同じ長さであると考えている音のまとまりなのです。

拍には種類があり、

- | | |
|-------------|------------------------|
| ① 母音のみ | 例：う |
| ② 子音+母音 | 例：き (※②の子音には半母音の一部を含む) |
| ③ 子音+半母音+母音 | 例：きゃ |

④「ー」、「っ」、「ん」

の4つに分類されます。

「喜屋武」を「きゃん」と読めば二拍、「きやん」と読めば三拍です。

①②を「直音」、①②③を「自立拍」、①②③の直後に付属し、単独で発音されないことが多い④を「特殊拍」といいます。ただし、「ん」は例外として単独で発音されることもあります。

(2) 「3説」について

拍が音の区切りであるとはいっても、実際に「ア・ー・モ・ン・ド」と区切って発音する人はいません。つまり、拍というまとまりとは別に、自然な日本語として認識されるまとまりを考えなければならないということです。そのまとまりを「音節」といいます。以前の復習になりますが、音節は聞こえ度が高い音を中心とした音のあつまりです。日本語が自然な日本語らしく認識されるポイントはこの音節にあり、日本語の学習者が苦手とする項目でもあります。

音節の数え方ですが、すべてが自立拍の場合は拍と音節の数は一致します。しかし、特殊拍や一部の母音の場合は、直前の自立拍とともに1音節を構成します。つまり、

① 1音節 = 自立拍1つ + 特殊拍「ー」「っ」「ん」

② 1音節 = 自立拍1つ + 一部の母音

となるのですが、以下に例を挙げます。

「角」は2拍2音節

「カード」は3拍2音節

「瀬戸」は2拍2音節

「セット」は3拍2音節

「滝」は2拍2音節

「短期」は3拍2音節

となります。

よって、「アーモンド」は音節により「アー・モン・ド」と3つにわけられます。整理すると、「アーモンド」は5拍3音節の語ということです。

3. まとめ&予告

語の音は拍と音節によって区切ることがわかりました。これらは一方が正しいというものではなく、両方の考え方を共存させなければならないことが重要なのですが、その詳細は次回に書きます。

拍と音節を対比しつつ理解すれば、略語の法則や聞き間違いから考える称呼の類否などについても、有機的な知識を構築することができます。

ところで、「弁理士」の音はどう区切りますか。拍では「べ・ん・り・し」で、音節では「べん・り・し」となるのでしょうか。しかし、実際には「べん・りし」と認識されます。その一例として、Youtubeで観られる『古坂大魔王&大原優乃、フラメンコラップで弁理士をアピール 日本弁理士会 MV「BENRIC」』では、二人が「べん・りし」と何度も歌います。そのように知覚されるメカニズムも含めて次回に譲ります。

以上